

## CEOメッセージ

代表取締役社長 CEO  
クリストフ・ウェバー



皆さま、

240年以上の歴史を持つタケダの使命は患者さんへ革新的な医薬品をお届けすることであり、各々がその重要性を心に留めています。私たちは折に触れタケダイズム（誠実：公正、正直、不屈）について語り合い、日々の業務においては、1.患者さんに寄り添い（Patient）、2.人々と信頼関係を築き（Trust）、3.社会的評価を向上させ（Reputation）、4.持続可能な事業を発展させる（Business）という順番に従って意思決定を行っています。これらの価値観は、私たちのすべての行動の原拠であり、タケダたらしめる所以でもあります。また、「世界中の人々の健康と、輝かしい未来に貢献する」という存在意義（パーパス）は、事業の成長戦略の核心であり、私たちが皆様へ価値をお届けするための礎となっています。

### 患者さんへ革新的な医薬品をお届けするために

私たちは、オンコロジー（がん）、希少遺伝性・血液疾患、ニューロサイエンス（神経精神疾患）、消化器系疾患という4つの疾患領域に重点的に取り組むとともに、血漿分画製剤およびワクチンにも注力しています。特にこれらの領域において治療選択肢が限られている、あるいは治療選択肢が存在しない疾患を有する患者さんに革新的な医薬品をお届けできるよう取り組んでいます。私たちの開発パイプラインはこれまでの治療法を大きく変えうる可能性があり、タケダがいかに患者さんに固有の価値をお届けしようとしているかは開発パイプラインをご覧くださいいただければ明らかです。さらに、データとテクノロジーの力を活用することは、私たちの使命を果たす上で不可欠なものとなりました。これらは、私たちの事業全体に変革をもたらし、患者さんの体験や治療法を改善し、革新的な医薬品の創出、開発および提供を加速させるものであり、タケダはこの変革の最先端にいても過言ではありません。

### ともに働く仲間の力を引き出す、理想的な働き方を目指す

患者さんを中心に考え、タケダの価値観に基づいて行動しながら、未来に向けてともに歩んでいる約50,000人の従業員は当社の誇りです。それと同時に、才能と多様性に富む意欲的な従業員を惹きつけ、長期にわたり活躍できるように、世界中の従業員に理想的な職場環境を提供することに努めています。さらに、生涯学習と人材開発の機会を提供し、すべての従業員の潜在能力を最大限発揮できる環境を整えています。また、心身の健康維持（ウェルビーイング）を支えるために重要となる働き方の柔軟性を重視しながら、企業文化とコミュニティ意識を強化することに注力しています。コロナ禍という特異な環境下で多くの従業員がかつてないほどのプレッシャーに直面する中、心身の健康を維持するための環境づくりの重要性を改めて認識できたことは、今日の取り組みにつながる大きな収穫となりました。

### 持続可能なヘルスケアシステムの実現と、地球のためにできること

私たちはサステナビリティを日々の事業活動に欠かせない観点と考え、すべての患者さん、ともに働く仲間、そしていのちを育む地球のために行動を起こしています。これは、私たちの存在意義に誠実に向き合うことでもあります。後述するように、社会が直面している医療格差や不公平性の課題に対して、私たちが持つ知見と能力を挙げて取り組み、持続的な価値の創出を推進しているのです。

当社は既存の医療制度が直面している課題に対応し、持続可能かつ公平な方法で革新的医療を提供するためには、価値の高い医療により多くの資源を配分する医療制度、いわゆるバリューベースヘルスケアの考え方が不可欠と考え、これを支持しています。世界の医薬品アクセス拡大に注力する当社にとっても、この課題への取り組みは重要である

と考えています。タケダは、Health Equity and Patient Affairsセンターを有し、私たちの研究開発と患者さんへの医薬品アクセスの両方に世界各国の人々の多様な意見を反映できるよう、意見収集するエコシステムをパートナーとともに構築しています。

また、当社が国連グローバル・コンパクトや持続可能な開発目標などの重要課題にどのように関わっているかを示す指標についても後述しています。グローバル・コンパクトの署名企業として、その原則を順守し、進捗状況の報告に努めています。

私たちの共存するこの地球の将来を想うと、迅速な行動をとるべき時期が到来しています。当社は気候変動危機が加速していることを真摯に受け止め、二酸化炭素排出量に対処しバリューチェーン全体で脱炭素化することを約束しています。温室効果ガス（GHG）の排出量に対する取り組みでは、2020年、スコープ1と2、およびスコープ3に相当する再生可能エネルギー証書の購入と検証済みのカーボンオフセットの利用を通じて、バリューチェーン全体で、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにするカーボンニュートラルを達成しました。さらに、スコープ1および2を含む事業活動によるGHG排出量を2035年度までにはネットゼロに、スコープ3（現在の推計値）を含むバリューチェーン全体のGHG排出量を2040年度までにはネットゼロにするという一層の目標の達成に取り組んでいます。<sup>1</sup>

## 長期的に安定した事業の成長に向けて

ここ数年、私たちは競争力を飛躍的に向上させてきました。これは、2021年度の好調な業績にも表れています。2021年度は成長製品により、力強い売上収益の成長を遂げることができました。実質的な売上収益は対前年

度+7.4%の増収、財務ベースの売上収益は3兆5,690億円（294億米ドル）となり、対前年度+11.6%の増収となりました。<sup>2</sup> その結果、実質的な売上収益と利益成長率において、マネジメント・ガイダンスを達成することができました。収益性については、2021年度の実質的なコア営業利益は5.4%増、利益率は28.0%となり、パンデミックによる逆風にもかかわらず、営業経費の効率化によって好調な業績を収めることができました。また、キャッシュフロー（2021年度9,437億円のフリー・キャッシュ・フロー）の創出も継続しており、成長製品への投資を可能にするとともに、負債の返済も行うことで、2022年3月の純有利子負債/調整後EBITDA倍率は2.8倍となりました。今後も当社の株主総利回りが確実に支えられ、大きな株主価値を創出する新たな段階を迎えると考えています。

## 未来に向けてさらなる一步を踏み出す

2021年度は2つの新製品の承認取得を含め、当社の事業活動、激動するグローバル環境への機動性を持った対応、そして研究開発の力強い進展を示す特別な一年になりました。患者さんへの新たな治療法の提供、適応症の拡大、そして新たな地域での製品の上市を通じて得た成長が、開発パイプラインにおける治療手段（モダリティ）の充実につながる好循環を生み出しています。現在約40の臨床段階の開発プログラムが進行中で、このうち後期開発段階にある10の製品候補は中期的な成長を支えるものと期待しています。さらに、データとテクノロジーの力を活用してバリューチェーン全体を変革し、新たな成長への取り組みを貫徹します。デジタル技術は、創薬から臨床試験、製品の製造、グローバルな流通に至るまで、私たちのすべての活動において、イノベーション、効率化、サステナビリティといった側面での推進に寄与するのです。



最後に、私たちはサイエンスに基づき、最も信頼されるデジタルバイオ医薬品企業としての歩みを進めています。イノベーションと革新的な解決策を生む企業文化は、当社に関わるステークホルダーの皆さまへの長期的な価値の提供へと繋がります。患者さんのためにできることを行うという原点に真摯に向き合い続けることは、私たちの事業戦略において欠かせないことであり、すべての人々とともに価値創造に引き続き貢献して参ります。

代表取締役社長 CEO  
クリストフ・ウェバー

<sup>1</sup>当社は、カーボンニュートラルと排出量ネットゼロを温室効果ガスプロトコルに基づき定義しています。実際のスコープ3の排出量は測定が困難であり不透明性が残ることからも、これらは取り組みを進めていく上で今後克服すべき重要な課題です。

<sup>2</sup>当社は、国際会計基準（IFRS）に基づく経営成績の分析を補足するために、IFRSに準拠しない指標を使用しています。非IFRS指標の定義、説明および調整表については、Appendixをご参照ください。